



香曾我部義則先生の今月のカルテ ③4

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるコラム。2007年最初の話は、「座骨神経痛」についてです。

臀部から大腿後面の鋭い痛み「座骨神経痛」
MRIで病気を鑑別し、症状に合った治療を

臀部(でん)部(お尻)かように、もう一人の人にから大腿(太もも)後面にかけて鋭い痛みを感じるものを総称して座骨神経痛と呼びます。病気の名前ではなく、病気によって生じる症状を表す言葉です。座骨神経痛を示す代表選手の病気は腰椎椎間板(ようついつい)かんばん(ヘルニア)です。ヘルニアのため神経が刺激されると痛みが走ります。図のようにベッドに仰向けに寝た状態で、痛みのある足の膝を曲げない

ります。ヘルニアの急な発症では安静が原則ですが脊柱管狭窄症や変形性腰椎症などでは必ずしも安静を必要としません。日常生活での腰への負担の軽減や座位での姿勢保持を避けるなどの工夫が大切です。

この時お尻からふくらはぎにまで響くような鋭い痛みが出ると(ラセーク徴候)ヘルニアが疑われます。腰椎の関節(椎間関節)が傷んだため生じる痛みはお尻に響いても、太ももからふくらはぎにまで痛みが走ることはありません。

原因は、ラセーク徴候が見られる腰椎椎間板ヘルニアが多く、腰部脊柱管狭窄(きょうさく)症や変形性腰椎症でも起こります。ラセーク徴候が見られない座骨神経痛では梨状筋症候群等があり、まれに脊椎腫瘍や骨盤腫瘍でも神経痛が生じます。



座骨神経は、腰椎から出る脊髄(せきずい)神経のうち第4、5腰椎神経と第1、2、3仙骨神経の枝が一つになったものです。1m以上あり、人体の神経の中で最も太く長い神経です。この神経は臀部の梨の形に似ている梨状筋という筋肉の下を

通って出現し、大腿の後面から膝(ひざ)裏で腓(ひ)骨と脛(けい)骨それぞれ神経へ枝分かれしています。したがって座骨神経痛は、脊髄神経が腰から出ていくところから梨状筋を抜けていく間に圧迫や締め付けが起こる状態をいいます。

治療は、まずレントゲン写真MRIを撮り、病気の鑑別を行う必要があります。

次回(仙骨硬膜外ブロック)についてです。

梶木病院(西花尻)

☎(086) 931-1111